

これまでの歩み



倶知安町百年史（下巻）



広報くっちゃん
(平成4年3月号)



広報くっちゃん
(平成18年1月号)

1 平成4年に文化福祉センターで行われた北海道新幹線早期建設決起大会には、後志・渡島の市町村長や商工観光関係者など、約1000人が参加／2 北海道新幹線の早期着工を目指し、町内では署名運動なども行われました／3 「北海道新幹線札幌延伸を強く願う倶知安期成会」の設立総会。現在は、「北海道新幹線建設促進倶知安期成会」へと名称を変え、北海道新幹線新函館北斗～札幌間の早期開業に向け、要望活動などを行っています

北海道新幹線建設促進倶知安期成会 会長

阿部 和則さん（倶知安商工会議所 会頭）

「北海道新幹線建設促進倶知安期成会」の会長を務め、北海道新幹線倶知安駅開業に向け、深く関わっている阿部和則さんに、これまでの取り組みを通して考える今後の新幹線への期待について、話を聞きました。



変わる町が良くなるように
今後も関わっていききたい

これまで、視察やPR活動などで、多くの新幹線駅やその周辺の街並みを見て、開業後の倶知安町を想像してきました。

すでに新幹線工事は着工しており、私たちが何もなくても新幹線駅は開業し、それに伴い、町は変わっていくでしょう。

ただ、早くから開業後の町のことを考え、準備しておくことでより良い方向に変わって行くと思います。私たちは、町や駅、その周辺の地域が開業に向けて、より良い場所になればと思います。取り組みを行っています。

町の良さが伝わって
「また来たい」につながれば

北海道新幹線には、これまで何度も乗車していますが、座席が広くて乗りやすい印象でした。新幹線駅の開業後は、多くの人が新幹線に乗って、町に訪れると思います。

その人たちに、町の良さが伝わって、また来たい、住んでみたいと思ってもらいたいです。

始まりは東海道
現在は全国をつなぐ

新幹線の歴史は、今から50年以上前の昭和39年10月1日に東京駅～新大阪駅間が開業した。北海道新幹線が始まりで、その後、山陽・東北・上越・北陸・九州新幹線が開業。北海道新幹線が開業した現在、北は北海道北斗市の新函館北斗駅から南は鹿児島県鹿児島市の鹿児島中央駅まで新幹線が通っています。

新幹線駅開業までには
50年以上の長い年月が

昭和48年11月、青森市から函館市や小樽市周辺を経由して札幌市へ向かう北海道新幹線の整備計画が決定。

これを受け倶知安町では、北海道新幹線倶知安駅実現のため、昭和49年に「北海道新幹線倶知安駅実現促進期成会」を設立し、関係機関への要望活動などを行ってきたことが、倶知安駅を経由する北海道新幹線新青森～札幌間の駅とルートの決定につながりました。

その後、平成17年に新青森～新函館間（仮称）の工事着工が

認可されましたが、倶知安駅を経由する札幌延伸の早期実現に向け、同年、「北海道新幹線札幌延伸を強く願う倶知安期成会」が設立されました。

平成24年6月の北海道新幹線新函館（仮称）～札幌間の着工認可までの間、多くの人たちが、北海道新幹線倶知安駅開業のために関わり、尽力してきました。その結果、昭和48年の整備計画決定から50年以上が経過する令和12年度（2030年度）、多くの人の願いが詰まった倶知安駅を経由する北海道新幹線新函館北斗～札幌間が開業します。

倶知安駅開業に向けた
まちづくりが始まる

倶知安町では今年6月、北海道新幹線倶知安駅開業に向けた、今後のまちづくりのあり方をまとめた「北海道新幹線倶知安駅新駅周辺整備構想」を策定。現在は「北海道新幹線倶知安駅周辺整備計画」を策定中です。

この整備構想は、町HPで確認できます。
(<http://www.town.kuchan.hokkaido.jp/town-administration/shinkansen/shinkansenmatidukurientou/>)



町の中ですでに始まっている新幹線開業に向けた取り組みを紹介します。

む

カウントダウンボード

役場正面玄関と文化福祉センターにあるカウントダウンボードには、倶知安町新幹線まちづくり絵・習字コンクールの優秀賞および特別賞の受賞作品を掲示しています。写真は9月中、文化福祉センターに掲示された湯口楓さん（東小）の作品。

第1 倶登山橋



町道西3丁目通りに架かる第1 倶登山橋は、現在、新たな橋の架け替え工事を行っています。

令和3年11月から供用開始予定の新たな橋は、現在よりカーブが緩やかになり、歩道が設置されます。工事完成は令和4年度末の予定です。

トンネル工事



町内では、羊蹄トンネルとニツ森トンネルの採掘工事が行われ、発生した土は現在、字花園と字高見の町有地へと運ばれています。

平成28年の町民施設見学会では、ニセコ町内の昆布トンネル採掘現場を見学。多くの応募がありました。

北6条宅地造成地



町では、倶知安高校前の旧胆振線跡地の町有地で、新幹線移転対象者向けの宅地造成工事を行っています。工事は現在、上下水道工事を行っており、今後、造成地内の道路工事を行います。完成は11月末で、来年春より住宅建設が始まります。

南一線跨線橋



南側の歩道橋を整備した後で、北側の歩道橋は撤去されます。

新幹線は倶知安駅に、高架で接続する予定のため、この跨線橋が支障となります。北海道新幹線倶知安駅の工事に併せて撤去され、仮踏切が設置される予定です。

町民が描く未来



倶知安町で生まれ育った柏谷匡胤^{まさつぐ}さんは、新幹線まちづくり検討委員会の委員として、「北海道新幹線倶知安駅周辺のまちづくり提言書」の作成に関わりました。

そんな柏谷さんに、北海道新幹線倶知安駅開業への思いについて、話を聞きました。

新幹線まちづくり検討委員会委員

柏谷 匡胤^{まさつぐ}さん

横関建設工業株式会社 代表取締役社長

コンセプトは
「住民が歩きたくなるまち」

倶知安町で育ち、大学卒業後、地元に戻ってきました。その頃から、まちづくりに関心があり、個人的に勉強会などに参加してきたことから、町が行うワークショップや検討委員会に参加する機会に恵まれました。

まちづくりの議論を
町全体に広げたい

これまで、検討委員会の中でしか議論が広がらず、こういった委員会があることすら知らない人が多いという状況でした。話し合った内容が、もっと住民に伝わり、もっと多くの人が関わることで、より良いまちづくりができるはずです。

また、近隣町村に住む人からも、新幹線に期待する声が聞かれます。駅ができる町だからこ

そ、私たちが町全体でしっかりと、今後のことを考えていかなければいけないと思います。

趣味を楽しむ人が
これからも多いまちに

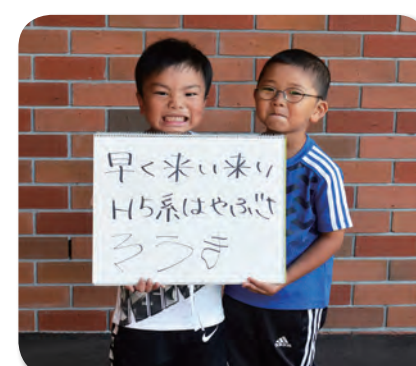
この町には、普段の生活の中でも、しっかりと自らの楽しみを持つ人が多く、同じ楽しみを持つ人同士が週末を一緒に過ごすライフスタイルは、この町の魅力の一つだと思っています。

木のぬくもりが
似合う場所に

木材利用の取り組みに関わっており、新幹線の新しい駅舎には、地元の木を使用し、その周辺の街並みも木のぬくもりが感じられ、木の駅舎が似合う暮らしのできる町になればと感じています。

思い

新幹線のある未来への期待や願いを聞きました。



訳：新幹線が楽しみです。都市からの距離が近くなると、倶知安はもっと発展します。